



奥行き約24m、幅約3mに分割した
「ウナギの寝床」型オフィスビル

THE EDGE (下目黒)

Building / THE EDGE (Shimomeguro), Tokyo
Designer : Tatsuya Ogawa / 16A

東京都目黒区下目黒2丁目2-10

企画：ラ・アトレ

設計・監理：16アーキテツツ 小川達也 渋谷真弘

協力：建築設計／ラックスデザインスタジオ

構造計画／ハシゴタカ建築設計事務所

設備設計／Y.M.O.

照明計画／Ripple design

施工：中島建工

撮影：中山保寛

2点／東京・下目黒に立つ地上5階建ての
オフィスビル。南北方向に細長いL型の敷
地は5、6階建ての中層ビルに囲まれている。
南側前面道路に面する大開口にはオーニン
グを配し、夏季のダイレクトゲインを軽減。
部屋ごとにランダムに開閉するオーニン
グによって常に変化するファサードを実現した



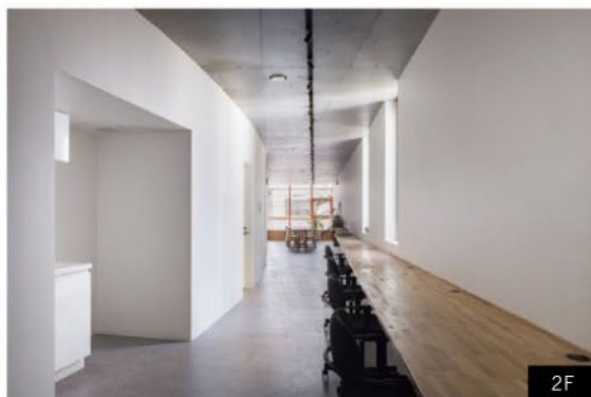


3F

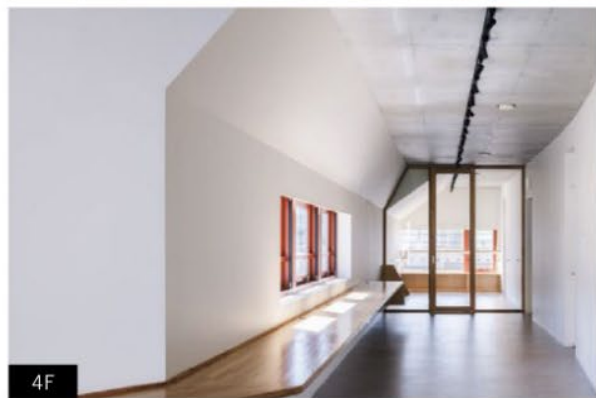
壁際には長さ約24mの造作家具を配置。高さや奥行きが変化し、デスクやベンチ、展示棚として利用できる。ロングデスクとすることで、業務内容によって社員同士やゲストとの距離感を選択して座れるようにした



2F



2F



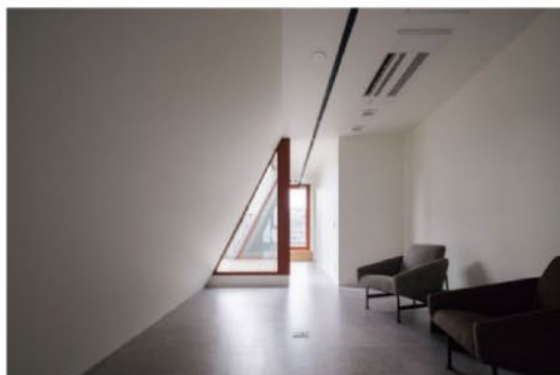
4F

上左／各区画の奥側にはバルコニーが設けられている 上右／長さ約24mの細長いオフィス空間。入り口から近い場所に待合や会議室を配し、入り口から離れるほどプライバシーの高い執務空間となる。手前が執務空間 下／秘匿性の高い打ち合わせや電話などがあることも想定し、4階には会議室付きの区画を用意。別の区画においても会議室を後付けできるよう壁面の造作家具の一部は取り外せるようになっている



5F

上/最上階は1フロア1区画のスペース。キッチンや中庭、建物の両端にバルコニーをつけるなど、他のフロアにはない特別な設えとした。下/キッチン奥のスペースは建築形状がそのまま現れる空間とした。空間の用途はあえて設定せず利用者に委ねている



自分の好きな場所に座れるオフィス

東京・下目黒に立つオフィスビル。目黒駅から行人坂を下り、目黒川を渡った先にある敷地は、周囲を5、6階建ての中層ビルに囲まれている。南北方向に細長いL型の敷地に9室のオフィスからなる地上5階建ての建物を計画した。

コロナ禍以降、さまざまなオフィス改革が進む中、クライアントからはこの敷地でしか提案できない新しい時代にあったオフィス空間が求められた。リモート会議や在宅勤務など個人での業務が多いからこそ、リアルなコミュニケーションとその多様性がこれからのオフィス空間の最も重要な役割である。当たり前であるが隣に誰が座っているのかは重要である。隣に同じプロジェクトを共有する社員がいれば効率が上がり、気の合う社員がいればリラックスでき、気の合わない上司がいれば緊張する。他者との物理的距離を自由に取れる空間、自分の好きな場所に座れるオフィスこそ、コミュニケー

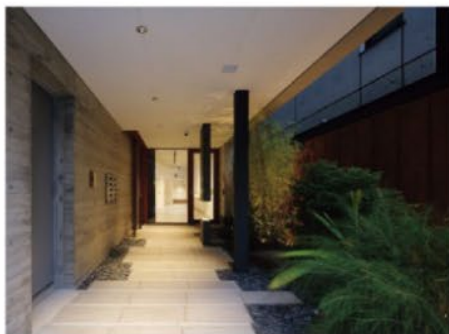
ションの多様性につながると思った。

多様なコミュニケーションのためには、この敷地での最大距離を取ることが最重要事項となる。奥行き約24m、幅約3mの細長い「ウナギの寝床」と言われる京町屋のようなオフィス空間を提案した。たとえ約80㎡の小さなオフィスであっても、24mの物理的距離が多様なコミュニケーションを生み出すと考えたからだ。南北面に採光・通風の大きな開口を配し、長手方向の壁には極力開口を設けないことで、距離感を最大限感じ取れる空間とした。京町家のように入り口から奥に行くほど、よりプライベートな機能へと緩やかに変化していき、最も奥に外部空間となるバルコニーが配される。

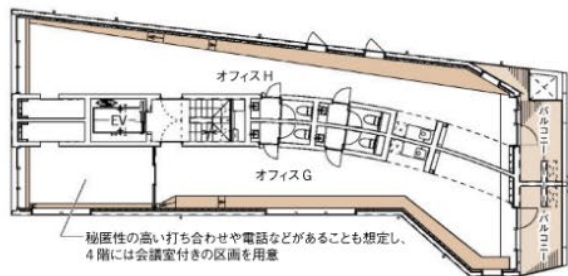
奥に行くほど広がっていく細長い敷地形状に沿って、各オフィスの間にある構造設備コアを緩やかにカーブさせつつ、オフィスの幅を敷地に合せて広げていくことで、二つのオフィス面積を均質化しつつ、この敷地でとれる最大限のオフィス面積を確保した。長く緩やかなカー

ブを描く構造設備コアの壁面と敷地形状に沿って折れ曲がる壁面によって見通しの利かない部分ができ、南北開口部から入る柔らかな光のグラデーションと相まって豊かなシークエンスが生まれる。

長さ約24mの細長いオフィス空間では、入り口からの物理的距離によりゲストとの関わり方が変わることに着目することで、距離によるゾーニングを行っている。入り口から近い場所に待合や会議室が配され、入り口から離れるほどプライベートの高い執務空間となる。壁際に高さや奥行きが変化することで机やベンチ、展示棚になる長さ24mのひと続きの家具を配置して距離感を強調しつつ、長い家具の好きな場所に座れることで社員との距離感、ゲストとの距離感をグラデーションに選択できるようにした。物理的距離によって生まれる他者とのコミュニケーションの多様性こそ、これからのオフィスに求められる重要なキーワードであると考えた。 (小川達也/16アーキテクト)

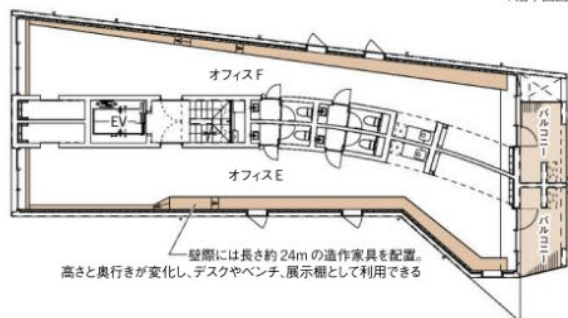


左/ビルエントランス。奥は1階「オフィスA」区画。右/入居者の共用屋上テラス。仕事終わりに酒を楽しんだり、ここで入居者どうしのコミュニケーションが生まれることを想定。また、Wi-Fiや電源なども設置してあり屋上でも仕事ができる



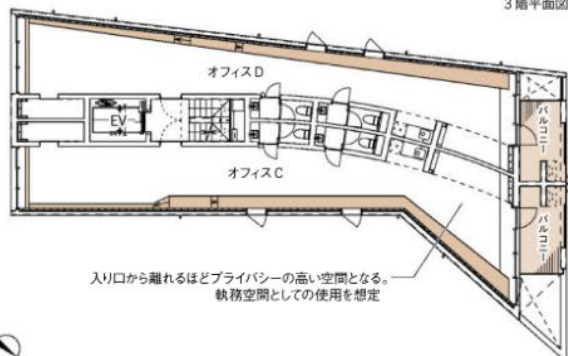
秘匿性の高い打ち合わせや電話などがあることも想定し、4階には会議室付きの区画を用意

4階平面図



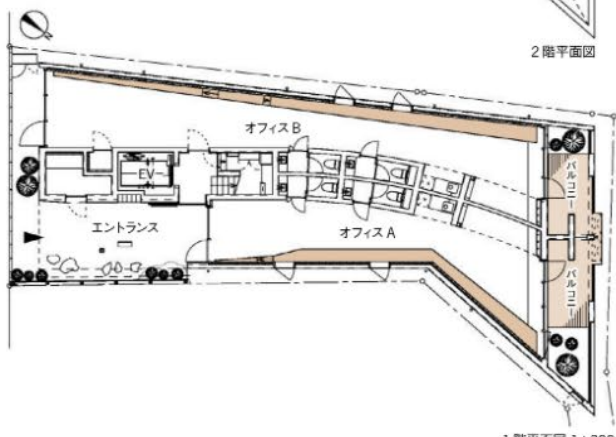
壁際には長さ約24mの造作家具を配置。高さや奥行きが変化し、デスクやベンチ、展示棚として利用できる

3階平面図

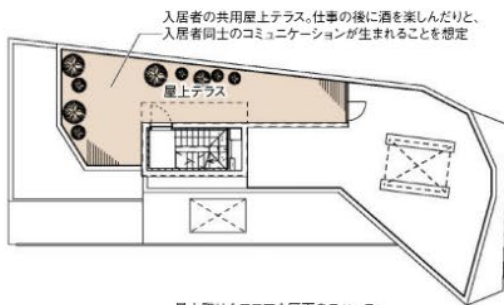


入り口から離れるほどプライバシーの高い空間となる。執務空間としての使用を想定

2階平面図

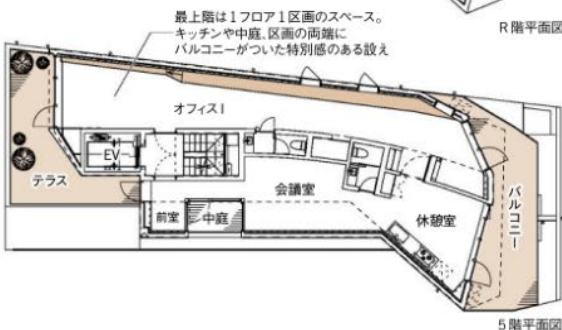


1階平面図 1:300



入居者の共用屋上テラス。仕事の後に酒を楽しんだり、入居者同士のコミュニケーションが生まれることを想定

R階平面図



最上階は1フロア1区画のスペース。キッチンや中庭、区画の両端にバルコニーがついた特別感のある設え

5階平面図

「ジエッチ(下目黒)」data

工事種別:新築
地域地区:準工業地域
建ぺい率:実効69.39%<制限70%
容積率:実効297.12%<制限300%
構造と規模:RC造 地上5階建て
敷地面積:277.52㎡
建築面積:192.57㎡
床面積:851.4㎡/1階183㎡ 2階185.43㎡ 3階178.1㎡ 4階174.91㎡ 5階120.9㎡ RF9.06㎡
工期:2022年7月15日~2023年6月19日

営業内容

竣工:2023年6月19日
所有者:樹ラ・アトレ
主な施設構成:事務所

主な仕上げ材料

屋根:コンクリートスラブの上保護アスファルト防水
外壁:コンクリート打ち放し コンクリート杉板本実打ち放し 開口部/STサッシ オーニング(ニュースーパーマキシム/BXテンバル)
サイン:内照式サイン/ST.PLリン酸処理仕上げ
床:置き床の上複層ビニル床タイル貼り(ロイヤルストーンPST3039/東リ)
幅木:ソフト幅木
壁:LGS組みPB下地クロス貼り(TH32332/サンゲツ)
天井:コンクリート打ち放し
家具:造作デスク/タモ材UC
照明器具:LEDライン照明(DNライティング) ダウンライト(大光電機、遠藤照明) スポットライト(大光電機、ウシオライティング)